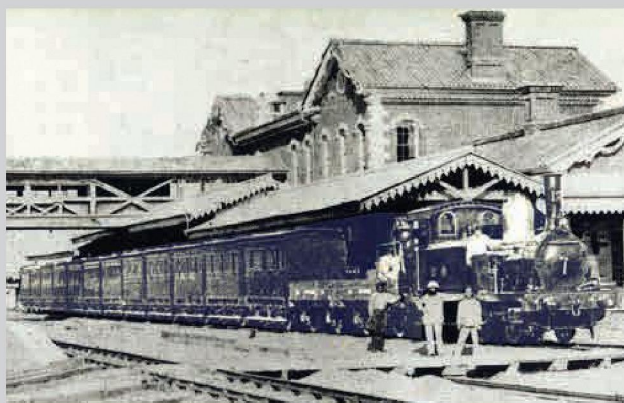




大阪駅に停車する2号機関車



加悦鉄道資料館で保存・展示されている2号機関車

歴史を刻む、 奇跡の蒸気機関車

2号機関車は、イギリスのロバート・スチーブンソン社で製造されました。同社は、世界で最初の機関車製造会社として知られています。

2号機関車は1873（明治6）年に同型の3両とともに日本へ輸入され、官営鉄道16号となりました。1873年といえば、明治時代が始まってからわずか6年。6年さかのぼると、江戸

日本各地で活躍し、 その後、加悦鉄道へ

2号機関車は、日本への輸入後、官営鉄道の大阪―神戸間の

時代です。そう考えると、この機関車がいかに長い歴史を持つ車両であるか、改めて実感します。

ちなみに、2号機関車は日本に現存する唯一のロバート・スチーブンソン社製の蒸気機関車です。

建設に使用され、完成後は旅客列車として活躍しました。その後、金沢機関庫、福井機関庫、富山機関庫、兵庫機関庫へと転属。加悦鉄道に移る直前には、島根県の簸上鉄道（現在のJR木次線）で活躍しました。

ボイラーの缶水漏れにより使用できなくなるまでに走行した距離は、なんと195万8596

km。これは、地球をほぼ49周する距離に相当します。まさに、日本の近代化を支え続けた旅路でした。

【連載 07】加悦鉄道（加悦～丹後山田）開業 100 年

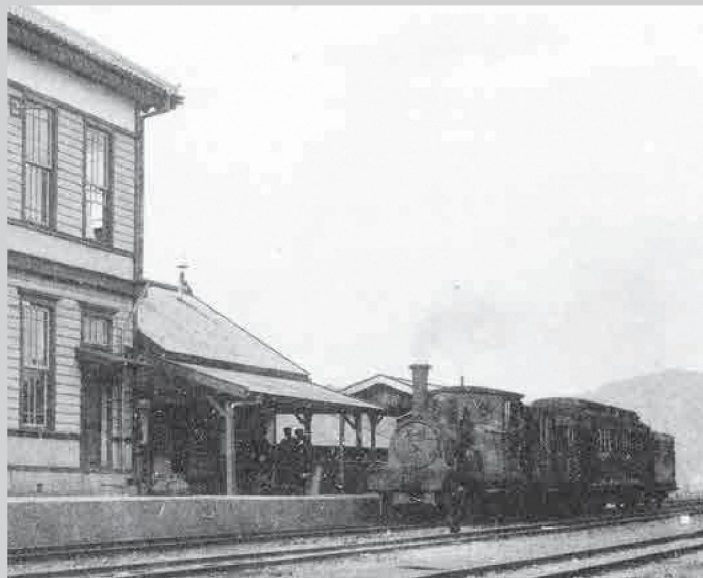
ガタゴト かやてつ 100年号

大正から令和へ - 思い出のレール100年 -



広報よさの9月号（No.247）では、加悦鉄道の車両として活躍したDC351ディーゼル機関車の現況についてお伝えしました。今月号は、加悦鉄道資料館で保存・展示している4車両の内、加悦鉄道2号機関車と、11月1日に開催予定の歴史まち歩きについてご紹介します。

☎ 産業観光課 ☎ 43-9012



加悦駅構内に停車する2号機関車（昭和5年）

日本だけじゃない！ 世界に誇る2号機関車

1955（昭和30）年ごろ、鉄道研究家で、日本交通公社交通博物館調査役や交通博物館館長を務められた鷹司平通氏が加悦鉄道を訪れました。鷹司氏は幼いころから大の鉄道好きとして知られ、交通博物館に勤務する傍ら、鉄道の研究にも取り組まれました。また、70年以上の歴史を持つ全国規模の鉄道愛好者団体「鉄道友の会」の世話役も務められたそうです。



2号機関車を撮影する鷹司氏

日本産業遺産、そして 国の重要文化財へ

1956年（昭和31）年11月、2号機関車はボイラーからの漏水により使用できなくなりました。しかし、その後も多くの方々の手によって保存・維持管理が続けられた結果、現在も加悦鉄道資料館で実物を見ることができ

ます。鷹司氏が世界的にも価値のある機関車と評価された2号機関車は、2000（平成12）年に日本産業考古学会の産業遺産に認定。また、その3年後には旧加悦町の指定文化財となりました。さらに、その2年後には、機関車台帳と併せて国の重要文化財に指定されました。なお、重要文化財としての名称は「123号鉄道院蒸気機関車」です。

その鷹司氏が加悦鉄道2号機関車について、世界的にも価値のある機関車であると評価されたことから、以降、加悦鉄道では2号機関車を「社宝」として大切に保存されました。

11 / 1 日 「加悦鉄道関連イベント」 古地図の中の ちりめん街道を 歩き観る

古地図を読み取り、その後、古地図を片手にまちを歩き、観ていきます。ちりめん街道が戦国時代の防衛遺構を基礎に、大正期の鉄道とその後の自動車の普及により変遷したものであることを体感することができます。

【時 間】 午前10時～
【集合場所】 旧加悦町役場庁舎
【その他】 教育委員会事務局職員が解説を行います。

来月号

今月号では、加悦鉄道2号機関車と、11月に開催予定の「歴史まち歩き」についてご紹介しました。来月号では、開業からちょうど100年を迎える12月5日に開催予定のイベントについてお伝えします。食に関する話題もありますので、どうぞお楽しみに。